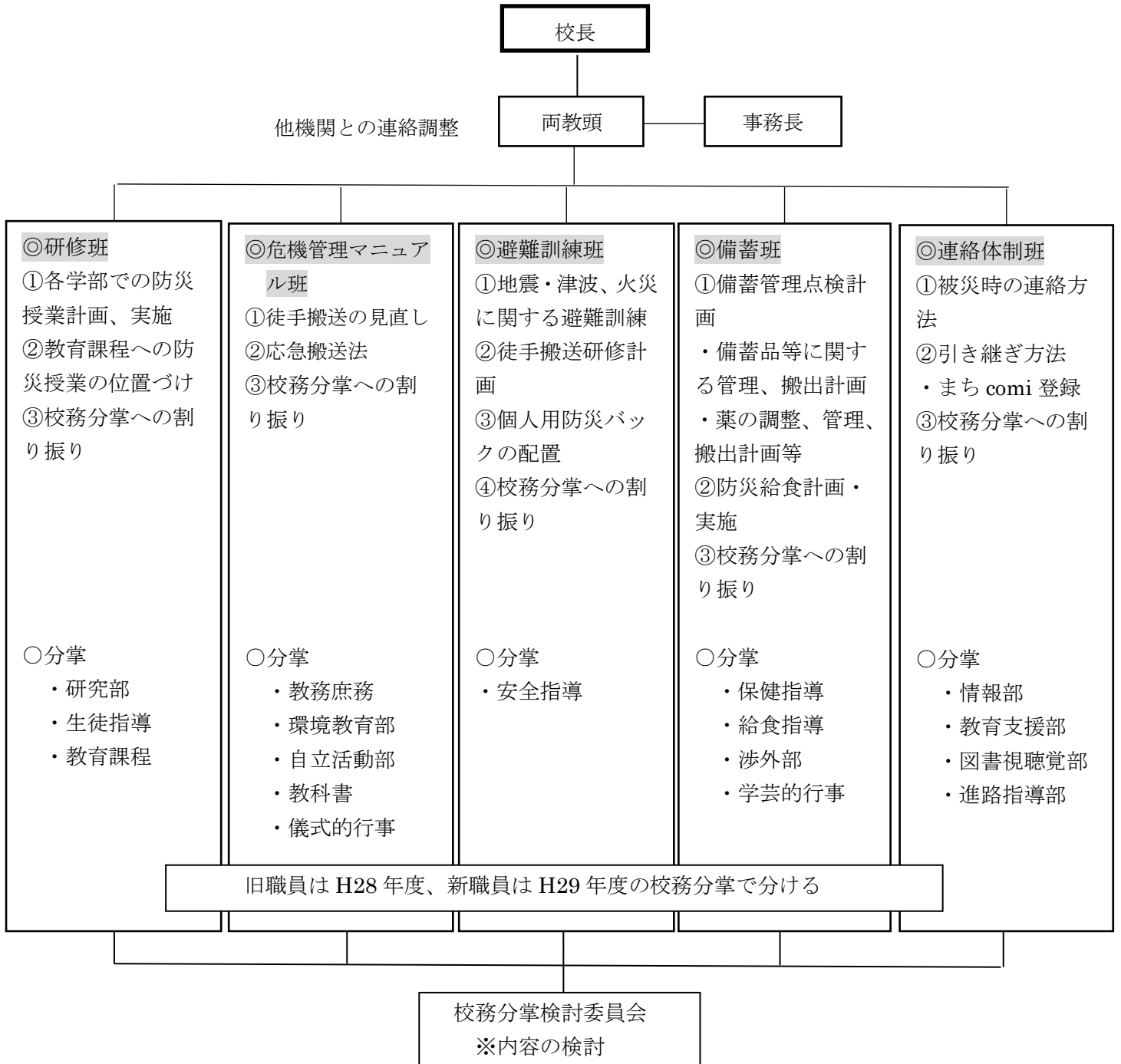


校内研修

テーマ：地震・津波対策に向けた校内整備及び機能化

研究組織



研修日程・内容

学期	日時	研修事項	研修内容	方法	備考
1 学 期	4月7日(金)	医ケア研修 「摂食指導」	重症心身障害児の摂食指導について	講話・実習	新職員
	5月10日(水)	職員研修①	・本校の防災安全について ・校務支援システムについて	講話	全職員
	6月14日(水)	職員研修②	各班にて	話し合い	全職員
	7月21日(金)	職員研修③	車イスの基本的な構造と安全な使用方法 プレーリーくんの基本的な装着方法	講話・実習	全員
	7月24・25・26日	医ケア研修 「救急法」	心肺蘇生法等(心臓マッサージ・AEDの方法等)	講話・実習	全職員
2 学 期	9月20日(水)	職員研修④	各班にて	話し合い	全職員
	10月11日(水)	職員研修⑤	～新特別支援学校(幼・小・中)学習指導要領改訂に向けた説明～	講話	全職員
	11月1日(水)	職員研修⑥	各班にて	話し合い	小・高職員
	11月8日(水)	職員研修⑥	各班にて	話し合い	中職員
3 学 期	1月10日(水)	職員研修⑦	各班にて 原稿作成まとめ	話し合い	全職員
	1月31日(水)	職員研修⑧	学習指導要領改訂に向けて	講話	全職員
	2月7日(水)	職員研修⑨	報告会：校内研究	発表	全職員

研究の進め方

- (1) 昨年度の課題を精選し研究を進める。最終的には、校内における地震・津波の際の安全体制を継続的なものにするため校務分掌への業務振り分けをする。
- (2) 班別研究日を設定する。必要に応じ研究日を班ごとで臨時に設定する。
- (3) 報告会を設定し、研究してきた内容を職員全体で共有を図る。
- (4) 校内研修は職員全員参加する。

成果と課題

(1) 成果

- ①各学部、学年、特活として取り組み搬送方法や児童生徒の実態に合った避難時の用具（担架、おんぶ紐）の確認、保護者と相談しながらの防災バックの確認等ができた。
- ②児童生徒の身体の成長や心身の配慮事項も踏まえた、より適切な人数配置を考えることができ、児童生徒の搬出方法や必要な人数を職員で確認できた。
- ③避難分岐図を全教室に掲示し、どこに避難するかをすぐに判断できるようになった。
- ④訓練内容の検討を行ない、重点的なねらいの設定や避難で必要とされる徒手搬送の訓練を実施することができた。
- ⑤地震津波避難訓練では、教育センター職員と本校との役割分担を明確にすることができた。
- ⑥校舎内整備として、各学部廊下の整備ができた。
- ⑦備蓄品を充実させ、保管・管理・搬送がスムーズに行えるような体制の整備を行なった。薬情の管理方法の周知を図った。
- ⑧校務分掌への業務振り分けを行い校内の安全体制を整備することで今後に繋げ、職員が変わっても継続できるような体制にした。
- ⑨当初の計画には無かったが、学習指導要領の改訂に向けての取り組みとして外部講師を招聘し、今後の防災の含む教育課程の編成に努めた。

(2) 課題

- ①保護者への啓発として授業参観日に設定したが保護者の参加が難しかった。
- ②高等部では、おんぶ紐を使用しておんぶの練習が必要。（一人の生徒の装着に5分かかった）
- ③実際に徒手搬送での避難訓練は実施できなかった。
- ④徒手搬送に必要な道具の装置や応援要請の連携体制はまだ不十分な点があるのでより充実した避難体制を整える必要がある。
- ⑤一時避難場所への避難訓練は継続的に実施できているが、本校3階への避難訓練や児童生徒の徒手搬送訓練は未実施である。そのため、毎年度実施する訓練内容を検討していく必要がある。
- ⑥栄養剤、薬情等が未提出児童生徒に対し、保護者の協力依頼を行なう。備蓄品、薬情等のチェックを年2回行えるよう調整し、引き継ぎを行なう。
- ⑦「まち comi メール」では保護者面談等で呼びかけを行ない、登録を増やして行く。